

「広報いんざい」編集方針

令和 7 年 10 月 1 日現在

1. 「広報いんざい」が抱える主な課題

月 1 回発行への移行により、1 号あたりの掲載すべき情報量が増加する中で、既存のページ構成ルールでは対応しきれない課題が顕在化している。

その結果、以下のような見直しポイントが考えられる。

- 既存のページ構成のルールがある程度定まってはいるが、発行形態や情報ニーズの変化に即した柔軟な再設計が求められている。
- 情報の分類や見せ方に統一感が不足し、読者が必要な情報にスムーズにたどり着きにくい。
- ページ数の増加によって、紙面が煩雑になりやすく、「読みやすさ」と「伝わりやすさ」が損なわれる可能性がある。
- 高齢者や視覚的な支援が必要な方にも配慮した、視認性やレイアウトの工夫が不十分。
- 市ホームページや SNS など他媒体との連携を強化し、紙面だけで完結しない伝達設計が必要である。

2. 編集方針

1. 手に取りやすく、情報が伝わるレイアウトに

タブロイド判から A4 サイズへと変更し、広げて場所をとらずどこでも気軽に読める広報紙にする。また、読者目線で各情報を整理し、情報の視認性・検索性を高める。

2. オンラインの情報に結びつけ、情報を漏れなく共有する

市ホームページでも、広報に掲載した記事の関連情報に簡単に結びつけられるよう、ID 検索を導入する。

3. 次号の発行が楽しみになる広報紙をつくる

特集記事や、市民に身近な情報を掲載し、親しみがもてる広報紙にすると同時に、編集方針 1・2 を確実に実行することで、信頼される広報紙をつくる。

3. ページごとの具体的な編集方針

1. 表紙 市の魅力を伝える写真をメインとする

メイン写真 1 枚を基本とする。表紙にインパクトを持たせ、季節感を感じさせるとともに、市の魅力を伝え、手に取ってみたいと思われる表紙とする。

2. 2・3 ページ 目次・市長メッセージ

気になる記事が見つけられる、分かりやすい目次を付ける。

3. 4～9 ページ 特集：市民にとって重要度・関心度が高い市政情報で構成する

市政情報の受け取り方に応じて見出し、レイアウトにメリハリを付ける。情報の特集または、複数情報の組み合わせも可とする。

4. 10～19 ページ 各課から提供された行政情報やイベントをジャンルごとに整理する

各情報をジャンルごとにインデックスなどを用いて整理したレイアウトとし、情報の視認性、検索性を高める。

（ジャンル例）暮らし、募集、健康、シニア、子育て、イベント・講座、その他、相談

5. 20～23 ページ 新コーナー、フォトニュース

新コーナーは、継続性があり市民の関心を引き付け、市の魅力を伝える物とする。

4. 24 ページ（裏）ページ

※1 号あたり 24～32 ページまでの範囲内で、4 ページ単位での増減があり